

令和8年2月19日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 11時30分
- 3 教育長名 和田 智司
- 4 署名委員 藤原 直彦
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	和田 智司
○	教育委員 教育長職務代理者	杉本 かおり
○	教育委員	古正 栄司
×	教育委員	三好 祐太
○	教育委員	藤原 直彦

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 松本 幸生 |
| 教育総務課長 | 田嶋 卓司 |
| 教育指導課長 | 倉重 成歩 |
| 教育指導課課長代理 | 高谷 松慶 |
| 生涯学習課長 | 山下 昌志 |
| 教育指導課指導班長 | 加藤 昭浩 |
| 教育総務課教育総務班長 | 高橋 篤史 |
| 教育総務課教育総務班主事 | 川名 義紀 |
- 7 傍聴者 2名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主事 川名 義紀

1 開会宣言

(教育長) 令和7年度2月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

藤原委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 2月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(藤原委員) English Day について、英語に触れるだけではなくて異文化体験がとても良いと思う。英語をただ話すことよりも、様々な文化に触れたり、様々な人と話ができたりすることが目的だと伝わるのがとても良かった。さらにより良くするために、他学年の交流も考えていただけると良いと思う。

(古正委員) 藤原委員の意見に関連するが、過去に一色小学校で県の小学校英会話活動として、平成17・18年に同じような授業を行ったことがある。その際は、English Festival という名称で、渡邊副町長に協力をしていただく中で、様々な国の人達を招いた。英語を話すのは白人だけではなく、様々な国の人達が英語を使っている。アジア圏やアフリカ圏など様々な国の人達を招いて丸一日行った。この授業のねらいは、英語が話せることによって、世界中の様々な人達とコミュニケーションを取れる。そのきっかけとして、実施した。子ども達が、この授業をきっかけに英語に興味を持ち、話せるようになりたいと思うてくれたら良いと思う。今後、さらに国際化が進んでいくと思うので、ぜひ継続的に行われると良いと思う。

学校運営協議会会長等情報交換会について、話題になった議題について教えていただきたい。

(教育指導課長) 年間を通して、コミュニティスクールの認知度の向上とボランティアの募集について苦労しているので、各学校運営協議会でボランティアの募集について、募集方法を統一しようと議論を進めている。

(古正委員) にのみや学園になったとはいえ、学校ごとに歴史も違うし、地域性もあるので、なかなか難しいと思うが、持続可能な形を作っていくには、学校運営協議会長の負担は相当大きいものだと思う。そのため、年間を通じてでなくても、これとこれは一緒にできる、これとこれは同じ計画が使える。そのような形にできると良いと思う。年に数回会合を持っていただく中で、知恵を出し合い、より良い持続可能な形が、そして、にのみや学園という形が追求されていくと良いと思う。

4 付議事項

(1) 議案第 17 号 二宮町スポーツ推進委員の委嘱について

(生涯学習課長) 二宮町スポーツ推進委員の委嘱について資料に基づいて説明

(藤原委員) スポーツ推進委員はどのような活動をされているのか。

(生涯学習課長) 町のスポーツ振興を進めていく非常勤職員となる。昔は町体育祭のイメージが強かったが、例えば事業報告の中にもあるようなニュースポーツ体験会などを実施している。スポーツ推進委員は全国各自治体に配置されており、スポーツの振興役や指導役、ニュースポーツの普及などといった役割がある。二宮町としては、スポーツに取り組みきっかけを作るということで、ニュースポーツ体験会や幼児スポーツチャレンジなどを企画している。

(藤原委員) 小中一貫を進めていくときに、コミュニティスクールがベースにというのは以前から話をしていて、コミュニティスクールは学校を拠点にしながら、地域と連携をしていく。これまでのスポーツ推進委員は、スポーツ界のためとしてやるのが沢山あった中で分割してやっていたと思う。今後は、他の地区と交流しながら、学校を中心にまとまっていくことを統一的に考えた方が良いと思う。要するに、スポーツ推進委員は全員学校運営協議会委員でも良いと思う。例えば幼児のイベントを行う際に、学校の体育館が利用できるというような話が、進んでいくのも良いし、そこに来る人がそのまま学習ボランティアをしてもらっても良いし、多面的に行っていることを少しずつ統一していく。それは縦割り行政の中だとやりにくいとは思いますが、少し引いてみて、その地域に住んでる人が交流していくのにどんな役割とイベントがあるのか。それは別々に行う必要あるかを整理していけると良いと思う。統一・統合できないのかという視点で考えて欲しい。

(教育長) 委員に議案第 17 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 17 号は承認される。

(2) 議案第 18 号 二宮町青少年指導員の委嘱について

(生涯学習課長) 二宮町青少年指導員の委嘱について資料に基づいて説明

(藤原委員) 平均年齢について説明があったがどのような意図があるのか。

(生涯学習課長) よくある質問のため報告した。

(藤原委員) 平均年齢が上がる傾向が見られるのか。また、平均年齢を下げたいなどの意向があるのか。

(生涯学習課長) 町で委嘱している委員は、同じ方が長年担っていただいていることもあるため、結果的に平均年齢が上がってしまう。代替わりを進める必要がある中で、参考に報告した。

(藤原委員) 年齢層が若い貴重な委員ではないかと思う。”Vamos” Live については、今後どうなるのか。

(生涯学習課長) 来年度からラディアンが大規模改修工事に伴う休館に入ってしまうので開催する予定はない。

(藤原委員) 青少年指導員はどのような活動をされているのか。

(生涯学習課長) 過去には、子ども会のキャンプがメイン事業であったが、事業の終了に伴い”Vamos” Live を始めたものの、来年からラディアンは休館となってしまう、開催ができなくなる。これまでは、スポーツ推進委員も青少年指導員も、地域から選出してもらって地域と関わりを持つというようなところがあった。現実として、各委員が地域で何かイベントをしようとしても集客が難しく、町全体をターゲットに取り組みをしていこうということで、公募型で委員を募集し、活動していくこととなった。青少年指導員については、今の時代に合った活動を議論してきた中で、人がなかなか集まらないのであれば、人が集うところに出向くという手法に切り替えていくことも必要と考えている。では、子ども達はどこにいるのかを考えたときに、東大跡地には多くの子どもが集まっているので、そこと連携した事業を進めていこうという意見が協議会の中で出ている。

(藤原委員) 学校運営協議会の会長を担っていた身として、地区での年齢層が上がってしまい、中学生との間にとってもギャップがあると感じている。その中間の年齢層のため、とても貴重だと思う。運営協議会との繋がりも含めて、検討できると良い。

(教育長) 委員に議案第 18 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 18 号は承認される。

(3) 議案第 19 号 令和 7 年度二宮町一般会計補正予算 (第 9 号補正) (案) について

(教育総務課長) 令和 7 年度二宮町一般会計補正予算 (第 9 号補正) (案) について資料に基づいて説明

- 非公開 -

(4) 議案第 20 号 令和 8 年度予算 (案) について

(教育部長、教育総務課長、教育指導課長、生涯学習課長) 令和 8 年度予算 (案) について資料に基づいて説明

(藤原委員) 武道館の畳を変える必要はあるのか。また、武道館はいつまで開いているのか。

(生涯学習課長) 現時点で明確にいつまで開いているとは決まっていない。畳に関しては、調べる限り更新の履歴がない。傷んできているところもある中で、スポーツ協会から

更新にかかわる要望もあり、予算を計上した。

(藤原委員) 畳の更新の頻度は追えるようにした方が良いと思う。

今年度予算について、要望どおりとれたものと、要望したがとれなかったものがあれば教えて欲しい。

(教育総務課長) 工事関係については、学校から要望をいただくが、全てを行える訳ではないので、優先順位をつけて予算計上をしている。来年度は二宮中学校の特別棟の大きな工事を予定している。

(教育部長) 工事に関連して、学校体育館のエアコンについては、十分に議論を進めている。しかし、様々なタイプのエアコンが出ていて、その後の維持管理費等も含めて研究が必要なことから、来年度予算には反映していない。

(杉本委員) 度々話題にあがるトイレについてはいかがか。

(教育総務課長) トイレについても課題の1つと認識している。しかし、まずは安全性を担保しつつ、よりよい施設にしていくためにどれだけの費用がかけられるかも含めて検討していく。

(教育指導課長) 多様な学び場の確保事業について、フリースクールに通う児童生徒の保護者への補助だけではなく、ほっとルーム等の備品購入が確保できたことは大きいと思う。この部分で、ビーズクッションを購入しようと思っている。居心地の良さが新たな居場所になるという繋がりがあるのでぜひ置いてみて、子どもが登校できるようになればと期待している。

(生涯学習課長) 生涯学習課は施設管理課のようになってきていると感じている。特に人口が増加したときにできた施設が老朽化している。生涯学習課は9施設を管理しているが、施設整備には高額なお金が必要となる。ここでようやくラディアンの工事に入る予算を計上できたが、ラディアンは外側からみると綺麗に見えるが、見えない部分で様々な箇所での修理が必要な状況となっている。そういったところを2年の工事の中で修理していく。先ほどの畳も関連するが、町民が安全・安心して施設を利用できるよう予算を確保できたと思う。

(古正委員) 小学校へ作業療法士の訪問・支援について、障害や発達課題の重い児童生徒の支援が対象になっているのかと思う。この作業療法士の訪問・支援については、町で積極的に新設をした事業なのか。学校や幼稚園、保育園等の現場からニーズがあり、それに答える形での事業なのか。

(教育指導課長) 母子保健等では、巡回相談を行う中で作業療法士を配置した方が良いとの話があり、令和7年度から来てもらっている。その中で小学校へも提案をいただいた。実証実験として小学校数校で行ったが、評判も良かった。作業療法士から活動の中で様々なアドバイスをもらっている。教育相談コーディネーターからもとても参考になっていると聞いているので、次年度も同じような形で、各校巡回できればと思っている。

(古正委員) かつて、支援学校の見学等で行った際に聞いた話は、作業療法士に関しては

特に高等部の生徒に非常に効果がある。それは、高等部を卒業した後の活動場所を考えるにあたり、今どんな力をつけたらよいか、必要なアドバイスをもらえると、その後の生活に役に立つ。ぜひ、中学校へも派遣を考えていただけると良いと思う。子ども達やその家族が苦しまずに、快適により豊かに暮らせるようにしてあげたら良いと思う。

(教育部長) 支援学校の高等部では、特に身体障害の方が社会に出るにあたって指導しているのかと思う。一方、保健センターで関わっているのは、発達障害の傾向がある子どもや、グレーゾーンの子どものなど、少し体の動きでその後の発達に違いが出てくる。そのため、幼稚園・保育園、小学校などの早い時期での、対応をメインに考えている。支援学級の児童生徒がその先どのようにしていくのかは別のテーマとして考えなければいけないと思う。現在の保健センターの取り組みは、幼少期を主体にやっている。進めていく中で、より発展した話に繋がっていくかもしれない。幼児のために7年度にスタートし、8年度に小学校にも広がることとなった。今後も研究をしていきたい。

(杉本委員) 作業療法士については、先生方への助言になるのか。保護者が直接聞くことができるのか。

(教育指導課長) 学校側が専門的な知識を学んでいる状況で、保護者に直接ではない。

(杉本委員) 保健センターでの事業では、保護者が直接アドバイスを聞けるのか。

(教育指導課長) 幼稚園や保育園等の先生方へのアドバイスをいただくような感じだと思う。

(杉本委員) 日本語指導員について、現在何名いるのか。日本語がうまく話せない児童生徒が増えていて、クラスの中でも困ってる様子があると聞いている。

(教育指導課長) 現在4名いて、来年度は5名を見込んでいる。

(杉本委員) 日本語指導員はどのような支援をするのか。

(教育指導課長) 週に数時間程度、児童生徒と課題等をしている。また、保護者に対して、学校から出るお便りを訳したり、学用品を一緒に買いに行ったりされている。

(古正委員) 主としては週に何時間か来て、国語や学活の時間に個別に取り出しで児童生徒の母語をベースに様々な日本語について指導をする。本来業務ではないが、通知表を配付する際に、保護者にその内容を説明していただいたこともある。困っていることの相談やテスト用紙を預けて別室で通訳をしていただきながら、テストを行ったこともある。

(杉本委員) 日本全体でも外国籍の方が増えてきている。海外では外国籍の人数が多いので、外国籍のクラスがあり、さらに取り出されたクラスもあるので、横の繋がりができる。担任の先生もいるので、保護者も困った際には相談できる。そのような仕組みがあるので、クラスに英語が話せない児童生徒がいてもサポートがある。そういう仕組みができれば良いと思う。

(教育指導課長) 同じ学校に5人以上いると、国際級が設置できる。しかし、同じ学校に5人もいないのが現状。

(杉本委員) 保護者からは孤立していると心配の声を聞いている。

(教育指導課長) 年に1度、日本語指導員と話をしたが、性格等もあり日本語の習得にはどうしても個人差がある。また、日本語しか話せないようにさせても、その子のアイデンティティがなくなってしまう。母語を大切にしながら、日本語も学ばせなければならずとても難しいと聞いている。

(古正委員) 日本語指導員は、児童生徒の日本語の指導が正業で、保護者への対応、学校生活での困り感を相談に乗ることはエクストラの部分だと思う。

(杉本委員) ラディアンの大規模改修に伴い、子ども達が交流や学習する場のための予算は含まれているのか。

(生涯学習課長) 含まれていない。現在利用している子ども達の意見も聞きながら、今後考えていく。

(教育部長) 急遽必要となった場合は、補正等で対応することになる。利用者の意見を聞かずに勝手に用意しても、利用につながらなければ意味がない。1月までは少し期間があるので考えていきたい。

(教育長) 委員に議案第20号について諮る。
委員全員賛成により、議案第20号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 令和8年度教育委員会基本方針(案)について

(教育総務課長、教育指導課長、生涯学習課長) 令和8年度教育委員会基本方針(案)について資料に基づいて説明。

(藤原委員) 大きくは目標を変えない方針であればそれはそれで良いと思う。そうであれば、9年が最終年度なのでまだ少し先だが、なぜ乖離があるのかわかっていながら進めてきたのかを例示をしないといけないと思う。7年度の数字がわからない中で、数値が良くなっているのが複数あるのはとても良い事だと思う。そのため、今回は見直しの必要はないが、7年度の報告の際には、施策と紐づけて記載していけると良い。そのつもりで、これからまとめていただくと良いと思う。

ICTについて、ICTを使うのは勉強の役に立つと感じているかはとても良い設問だと思う。単に何らかのアンケートで利用しているだけで、週3回以上になってしまうが、実際に学びが深まるように利用されているかはこちらの設問のような気がする。有効に使われているのか、有効な使い方があるから、研究会で発表してみんな利用できるようになっていた。そういうことを書いて行く必要があると思う。直近でデンマークでは、教科書を紙にするというような話があった。それはそれでとても良いと思っている。やはり紙の方が良い要素もあって、揺れて良いと思う。振れ幅として1回は全部ICTとしたが、揺れてしまう。この週3回も実は週3回では多くて、週1回ぐらいが実際にはベス

トかもしれないと思いながら見ているのも良いと思う。そのため、ICTが全教科の全体で有効に利用できる必要はなく、国語は意外に有効ではなく、社会は活用しやすいなど、傾向を把握する。教育委員として、無理に全体の80%を目指すというようなことではなく、そのような傾向があるので、この科目は活用していくと指針を示すことができると思う。何も全てをICTにすることが良い事だとは思っていない、というスタンスで対応したら良いと思う。

学校のLINEやホームページは、アクセスしてもらった方が良いような気はする。しかし、保護者からすると、ホームページの更新頻度は重要ではなく、求めている情報があったときにタイムリーに見られて、十分な内容が記載されていれば良いと思う。保護者が求めている情報が充分であったかとセットで確認をしていただきたい。一番良いのはLINE上にバナーが出るようになり、閲覧者が増加する。閲覧者が増加したことで学校の情報が身近に知ることができるようになり、学校との距離が縮まって、良き大人として学校を支えていく人も増加していく。そのようになると、目的としては達成。ホームページを見てもらう数が多くなることを目的ではなく、その地域としての学校が良くなっていくということが目的になっていくと良いと思う。アクセス数が増加することを目的としてKPIは設定しがちだが、実際にはどのように捉えられているかをセットで評価していけると良いと思う。

教職員の時間外勤務については、小学校と中学校で決定的に違いがある。それは中学校に部活動があるということなのかどうか。仮に部活動が原因だとすれば、現在部活動の地域移行を模索しているが、容易に地域に移行できない感覚を個人的には持っている。そうすると部活動という障害を取り除けない。理由をしっかりとわかるようにして、その理由に対策がとれないかを考えるプロセスに2年で踏み込みたいと思う。そのため、中学校の先生に小学校の先生に聞かない質問として、その専門教科のやり方だとなかなか勤務時間を減らしにくいのか、やはり部活動が原因なのか、進路相談に時間がかかるのかなどを確認しなければいけない。それによって、教育委員として、補助の先生をつけるにはどうすると良いのかディスカッションをするなどしないと、乖離が大きいままになってしまう。

(2) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

(教育指導課長代理) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について資料に基づいて説明。

(藤原委員) 全体的にとっても良い傾向なのだと思う。1つ考えるとすると、これから部活動が地域移行や人数の減少に伴い、運動部に所属する生徒も減少することが考えられる。そうすると、体力的にも低下してしまうことが考えられるので、それをどのように担保するかを考えていく必要がある気はする。そのため、体育系の部活に所属してる人

の割合がどのような変化があるのかを知っておくと良いと思う。中学の男子の数値が減少しているのは、サッカー部に所属する人が減っているからとなるかはわからないが、そういう傾向があることは見ておくと、いずれ本当に部活がなくなるともっと拍車がかかることになる。そのため、対策が少し早めに打てる気がする。少し難しいと思うのはサッカー部の人数が減ることと、クラブチームに入っている生徒がいるのかは、どのように計測するかは工夫が必要だと思う。体力づくりがどのようなようになっていくかという視点で、考えていただけると良いと思う。

(3) 卒業式と入学式の出欠席について

(教育総務課長) 卒業式と入学式の出欠席について資料に基づいて説明。

(4) その他

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11時 30分 閉会